

## 平成30年度 第2回豊橋市図書館協議会 会議要録

日時	平成30年9月20日（木） 14:00～16:00
場所	豊橋市中央図書館 会議室
委員	出席定数11名 うち9名出席
事務局	豊橋市教育委員会 図書館11名 都市計画部まちなか図書館整備推進室1名
議事	<p>議題</p> <p>(1) 平成29年度決算、図書購入・蔵書の状況、サービス指標について  (2) 豊橋市図書館基本構想中間報告（案）について</p> <p>報告事項</p> <p>(1) 図書館利用者アンケート集計結果について  (2) H30年度 図書館事業について</p>
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成29年度決算、図書購入・蔵書の状況、サービス指標について</li> <li>・豊橋市図書館基本構想（案） [中間報告]</li> <li>・豊橋市図書館基本構想策定基礎資料～図書館別カルテ～</li> <li>・平成30年度利用者アンケート調査集計</li> <li>・平成30年度利用者アンケート調査 自由意見（全件）</li> <li>・H30年度 図書館事業について</li> </ul>

### <議事概要>

#### 議題

(1) 平成29年度決算、図書購入・蔵書の状況、サービス指標について

事務局より、配布資料に基づき説明。各委員より以下の意見・質問があった。

#### 【委員】

登録者数が増えているのは小学生が増えたということか。

#### (事務局)

図書館だけの10歳から12歳、4年生から6年生までの人数は大差なかった。ただ貸出冊数は2.6%増えていた。それは読書通帳の効果があったと感じている。ただ利用者数のどこがということは要因が探れていない。

#### 【委員】

ブックスタートで赤ちゃん広場を月に3回やっているが、その時に平均40～50人来るが、必ず主事さんが「赤ちゃんの貸出カードを持っていますか、持っていないければ

作りますよ」とその場で申請できるように案内している。結構作られているためその効果あるのではないかと。

(事務局)

読書通帳が学校図書に効果があったかどうか。

【委員】

私の学校で調べてみると、それで凄く影響があったとかは貸出冊数上はない。ただ担任の先生が誰々が何冊目というように話しているのを聞くと、読書通帳があったことで読むことへの意欲付けに確かに繋がっている。学校図書館でなくして公共の図書館で借りてみようと、そういうものの新しい取り組みにはなったと思う。市内のある学校で学校を挙げて読書通帳を取り込んで盛んにやっている小学校の噂を聞いた。ピンポイントでうまくタイアップして、学校の中に読書通帳を入れ込んでそういう学校の実践についての情報は確かめてみると良い。2年目なので、市内の学校がどのように取り組んでいるか調べてみることが必要。

(2) 豊橋市図書館基本構想中間報告（案）について

【議長】

議題（2）「豊橋市図書館基本構想中間報告（案）について」ですが、本議題は今後、豊橋市及び市議会等において、調整・検討をする意思形成過程の案件であるため、非公開として行いたいと思いますが、ご異議はございませんか。

【委員】

異議なし

【議長】

異議ございませんので非公開で行います。

事務局より、配布資料に基づき説明。各委員より以下の意見・質問があった。

【委員】

基本構想についてここで図書館協議会が意見として出していったものが中間報告に反映してくれるのか、あくまでこれは承諾を求めてオーソライズする場なのか、意見の出し方があるので確認したい。

(事務局)

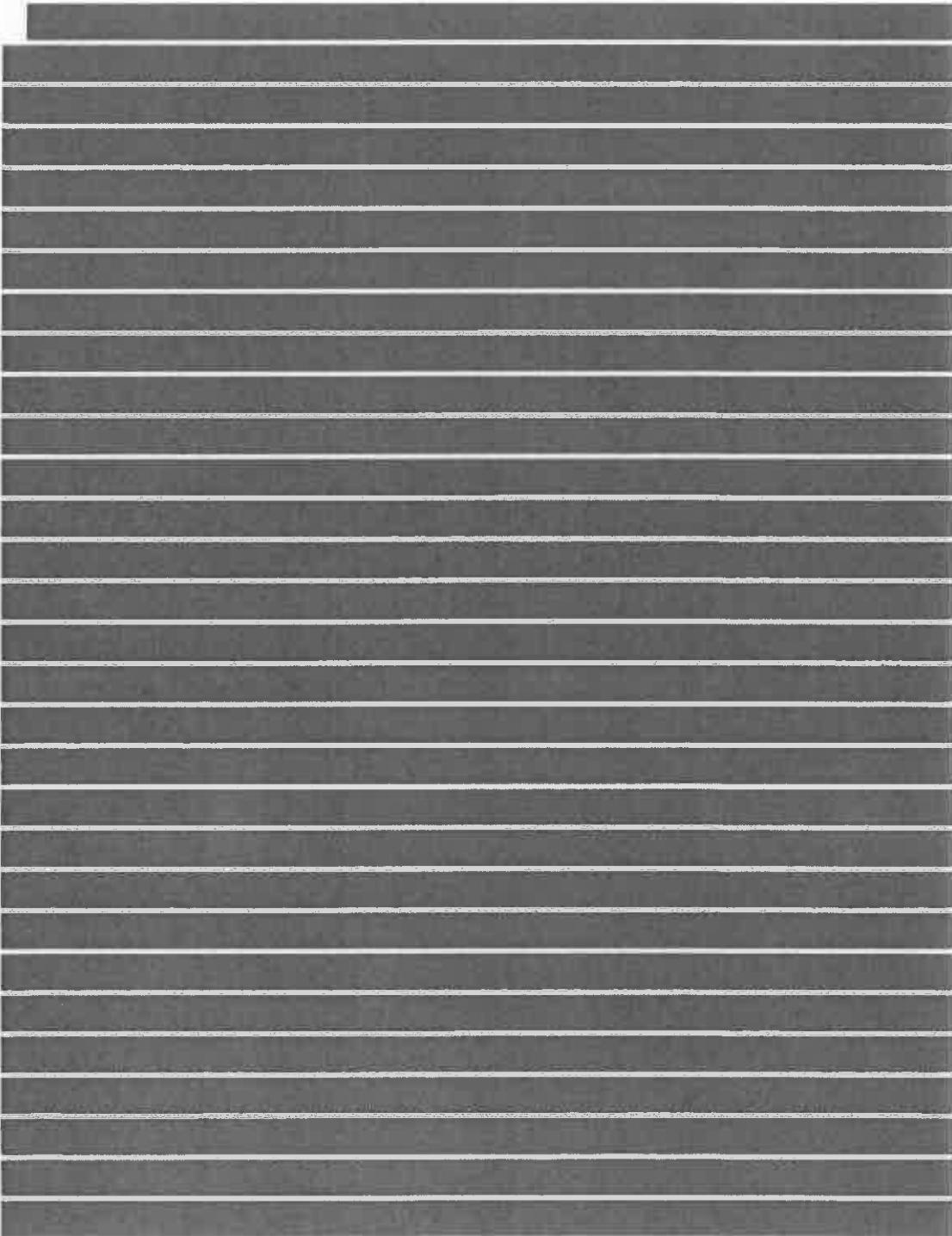
市民の声を聴くという段階で、最終的には議会に諮り、市民にも諮っていくが、まず有識者、それから色々な人の意見を聴くというところで、今回の図書館協議会を設けて

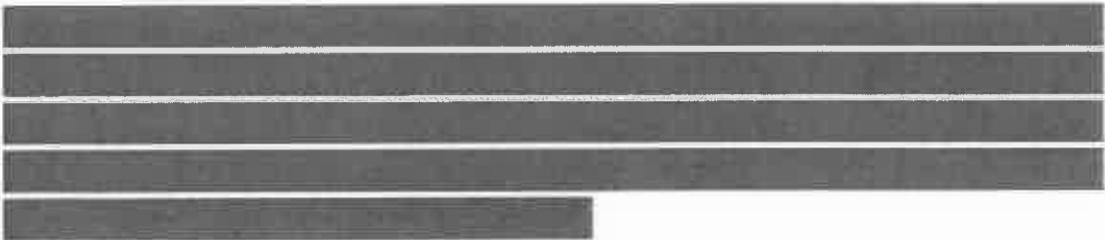
いるので、最大限意見を踏まえたものにしていきたい。ただ最終的にどうなるというのは、色々なことがあるので結果的にどうということは確定しない部分もあるができるだけ参考にして盛り込んでいきたいと事務局としては考えている。

**【委員】**

今日は意見として言えれば良いと思い、身構えてきた。

**【委員】**





### (事務局)

11日にアドバイザーミーティングということで、地域活性化伝道師の満尾さんにお越し頂いたで、ご意見賜った。豊橋らしさとは何だろうという話をした中で、やはり売りになるというのは、まちなか図書館ではないかと。そういうところを図書館がうまく機能できるような体制に持っていくことが大事ではないか。もちろん中央図書館を中心に中核の図書館なので、基本的なスタンスは持ちつつ、やはり豊橋らしさって何だろうと考えた時に、まちなか図書館という意見を頂いた。あと館長の外部登用についてはそれはあくまで絶対ではなくて、こういったことも念頭においていた形でマネジメントを進めていくということ。

### (事務局)

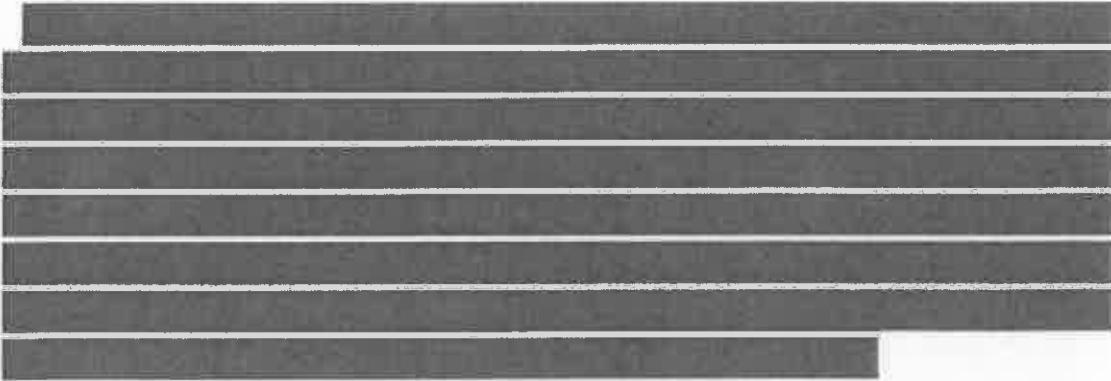
どうしても構想という意味では、総花的というか、色々な部門について書いてあるという形になってしまふが、豊橋らしさということで、うちの図書館は100年を超える歴史がある。蔵書においても古いもので羽田八幡宮文庫とか外国書だと司文庫とかがあり、そういったところが強みではないかと考えている。そこをどのように書くのかは迷った部分がある。どういう盛り込み方をするかは考えさせてほしい。館長の公募については、視野に入れたという書き方にしたが、16ページの他都市の図書館サービスといつても色々な図書館の状況がある。例えば、2番のメディアコスモスでは今まで図書館に携わっていない方を館長に公募して、どちらかというと子どもに関連するNPOから招いた方を館長として採用したので、子どもとか子育ての世代、中高生に利用し易いところにある程度特化したところは頗著にみられる。3番のアンフォーレはプロパーの市の職員が一生懸命構想からつくって、その方が館長になっていて直営を貫くという形で、最新の機器を導入して夜間の自動返却、自動貸出、色々な機器を使っているがその分直営のアルバイト、パートを含めた形になるが、フロアのスタッフの人数を増やした運営をしている。それぞれ特色があり、それぞれの良さを盛り込んだ形でつくってきたいと考えている。その中で外部登用もあり、内部でもしっかりとマネジメントしていく考え方も持っているので、そこは観点もあるというような意味で書いてある。

### 【委員】

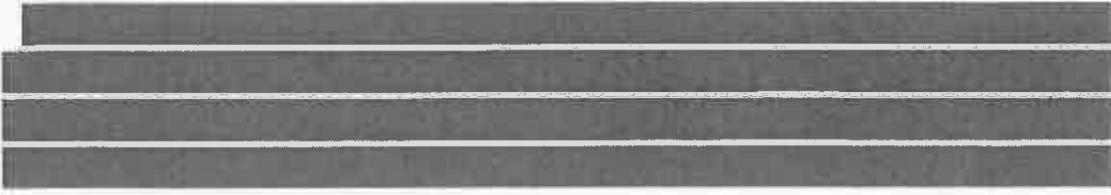
でも書いてしまうとそれが出来レースのようになってしまう。もしその方針でという意味で入れているのであれば、あまり前面に出さない方がいい。ただこれは意思を決定する人がどう考えるかだが、そういう意図があるのなら書かざるを得ない。またこちら

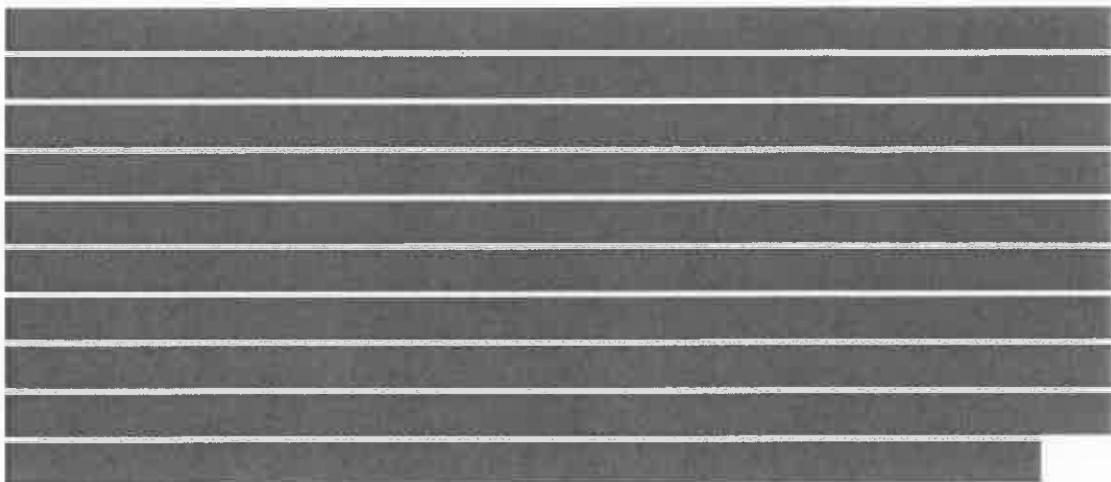
の図書館の特徴として羽田八幡宮文庫のことを挙げていたが、例えば岩瀬文庫と比べると、もう全く比べものにならないほどの蔵書数である。私は近世文学の研究をしているが、愛知県で名前が出てくるのは基本的に岩瀬文庫。羽田八幡宮文庫は文庫としてはかなり神道に偏った文庫なので、研究者としては非常に薄い。ここにしかない文庫というのも割とあるが、ここ以外にもあるというものは神道系で沢山世の中には残っているので、ここを柱にして、これがあるから豊橋の図書館は立派だという形には多分ならない。これは個人的な印象である。今、国の研究機関で所謂画像で収集した画像データというものを一般に公開するということを昨年から大々的に行われているが、こちらの図書館の資料もすでに調査済みで終わっているものもあるが、そういうものはオンラインで公開されていく。そうするとここはただその元の限定資料があるという位置付けしかない。これからどういった研究が盛んになるかわからないが、現時点では研究者が薄い分野の本を沢山持っている図書館の蔵書の位置付けを考えた方がいいと思う。とにかくこちらの図書館の基が羽田八幡宮文庫ということで、これが所謂近代図書館の基になるということだけはまず間違いない。そういうところを中心に据えて色々なことを考えることは大切なことかと思う。ただここにある資料自体は特別なものであると考えていくのは少し危険ではないかという気がする。実は今、知立市の市史の八つ橋編というのを編集に関わっているが、所謂羽田文庫以外の文庫に収められている郷土資料に関わるものというものが、大変貴重な文庫でそこにしかないものである。羽田文庫以外にも有益な資料はそこの図書館にあるということ。そういう手書きになっているような資料はこれこそほかにない資料。羽田文庫が基になっていることは重々わかっているが、その他の文庫も世の中に周知していくことは必要ではないかと、自分の研究がら考えていくとそのように感じる。

【委員】

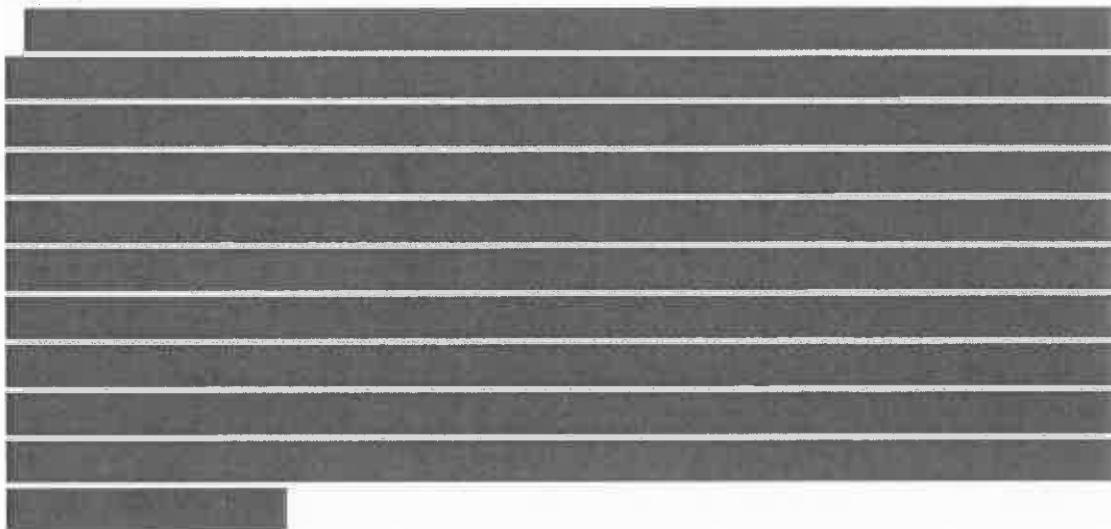


(事務局)

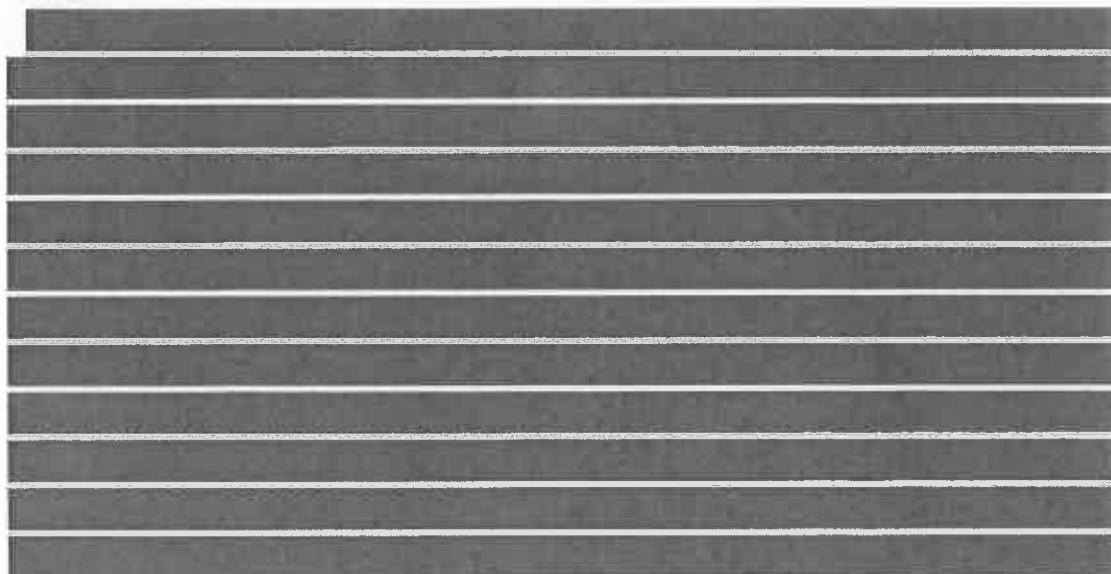




【委員】



【委員】



(事務局)

8ページの利用は、貸出券を通して貸出をした方の年齢からはじいているので間違いはない。ただ児童書が多いというのも事実であるが。

**【委員】**

高齢者の貸出者が多いということは、そういう人向けの図書を充実させる方向は考えているのか

(事務局)

考えている。逆に30~40代働き盛りの人が使ってもらえるような図書やサービスを充実していくことも考えていかなければと思っている。

**【委員】**

貸出の割合というものを、中央図書館とそれ以外の館分けたデータはないのか。

(事務局)

添付した図書館別カルテに利用者数の中の例えば5ページ曜日ごとの男性、女性の年齢の分け方になってしまうが、元のデータはあるので。

**【委員】**

この辺から中央図書館と分館で利用状況の違いが分かればそれなりに性格付けがみえてくる。基本目標のところは皆さん言われるよう何となくふわっとしたどこにでもあるような感じであるので、もう少し豊橋らしさというものと、根本的なところから考えて、豊橋の図書館の将来のあり方を基本理念、基本目標に考えて示すということが必要ではないかと思う。

**【委員】**

先ほどの質問であった、ネットワーク館があることで全国3位ということだが、その上位にある広島市とか北九州市そこの実情はどうか。やはり部屋があつて端末が置いてあるところをカウントしているだけなのか。

(事務局)

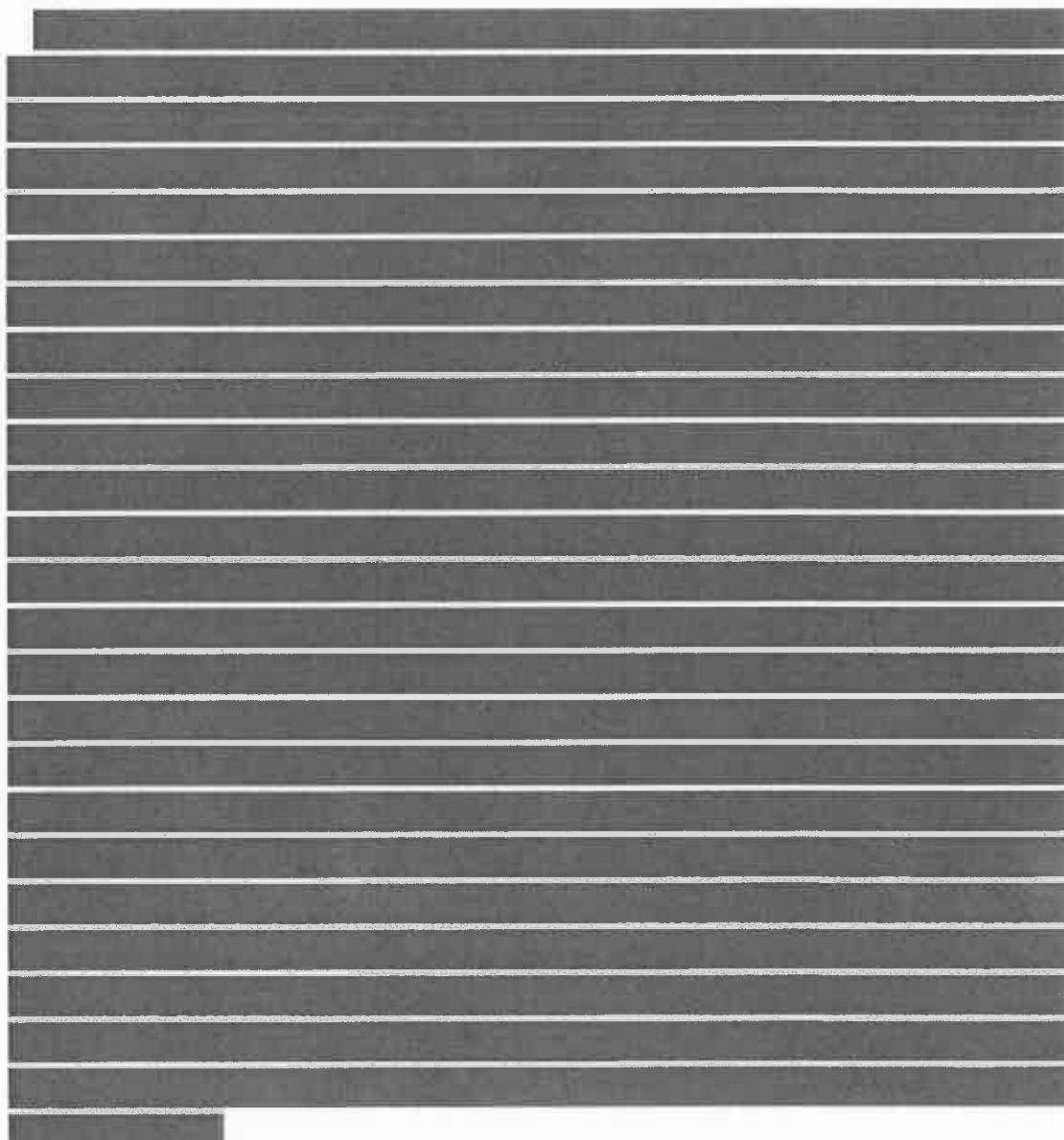
サービスポイントという位置付けなので同じような感じではないかと。国の全国調査

から拾ったので同じ抽出条件で出しているはずなので。ただ詳細までは確認していないので、一度確認したい。

**【委員】**

以前から何回も話しているが、このことが一番の特徴であると思う。中央館でしかできないのではなくいろいろなところで本を受け取ることができる。この部分を推して市の特徴として整理することが意味のあることと思う。

**【委員】**



**【委員】**

地区市民館、校区市民館の現状だが、子どもが一人でいけるような状況ではないと思う。実際学校によっては家に帰ってから子ども一人では行ってはいけませんというとこ

るもある。ある地区市民館ではソファのところには座ってはいけませんという張りがしてあった。このように小学生、中学生では使いにくいのかと思う。そのところは学校図書館がフォローするとか、中央図書館から司書が行くとかフォローしたらいいと思う。

(事務局)

校区市民館は学校帰りにもいってはいけないとアナウンスしている学校が多いと聞いている。市民館ごとで集計すると、すごく利用の多いところと全く利用のないところと極端に分かれている。

【委員】

立地条件でつつじが丘小学校や牟呂小学校は敷地の中に市民館があって、つつじが丘の時は帰りに寄っていいと言っていた。中に大人の人がいたため安心して寄らせることができた。確かにこういう時代で子どもたちの命の安全を考えた時に、今は集団下校になったので、居残り勉強すらできなくなってしまった。この十何年にそういう状況になってしまった。社会の情勢が変わったので、やり方もえていかないと折角用意したものもうまく利用できないということになるので、直さなければならない。

(事務局)

一律にとかおしなべてということがそぐわないとは思う。校区市民館でいえば例えば児童クラブで利用しているところもあり、そういうところは子どもが通っていると思うが一概に「校区市民館は」とはいえない。

【委員】

基本目標1で「だれもが立ち寄るみんなの図書館の実現」というところで、ここに出てくる就労支援、ビジネス支援、子育て支援、まちづくり支援、健康支援、福祉支援とかあるのだが、これは誰が行うのか。

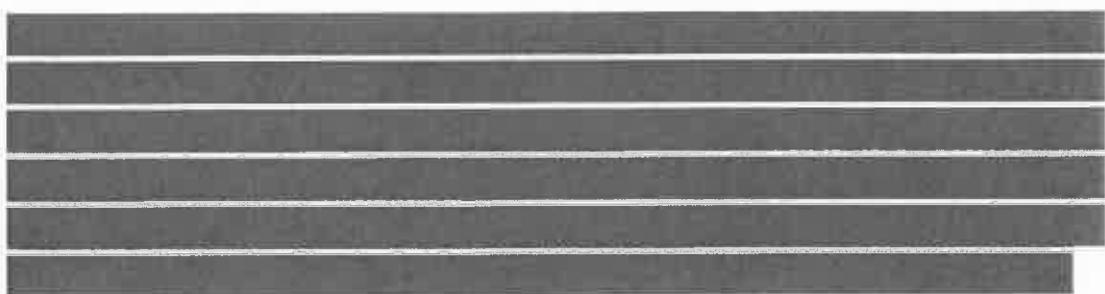
(事務局)

図書館スタッフだけでなく、図書館に関連するソムリエ的なものとして、関係するエキスパートであるとか色んな人が関わりあって、スタッフも勉強していきたい。本だけとか司書だけではできない。全てが常駐したようなサービスは実質的には難しいが、この日、この曜日には何々しているというようなアナウンスをイメージしている。アンフォーレでも子育て支援とか企業支援とかコーナーをもっているがそこは時間を決めてやっている。

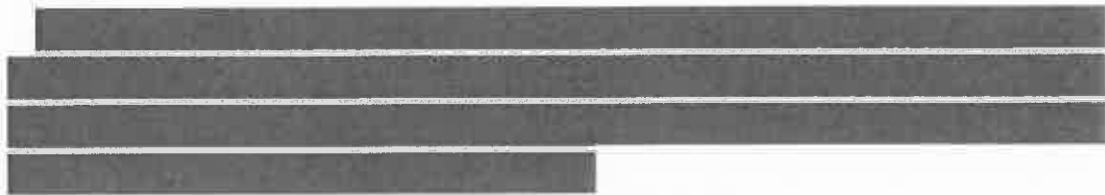
【委員】



(事務局)



(事務局)



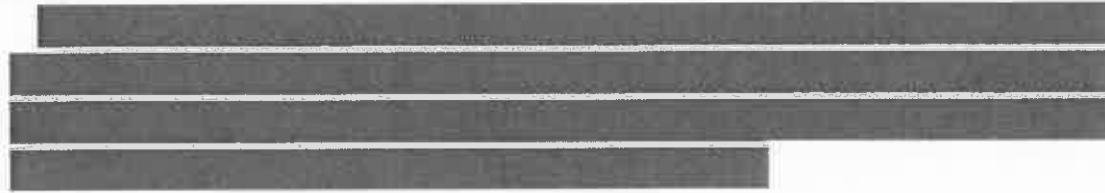
【委員】



(事務局)



【委員】



(事務局)



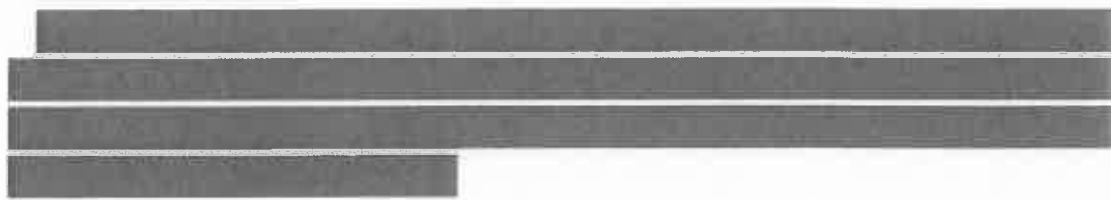
【委員】



【委員】



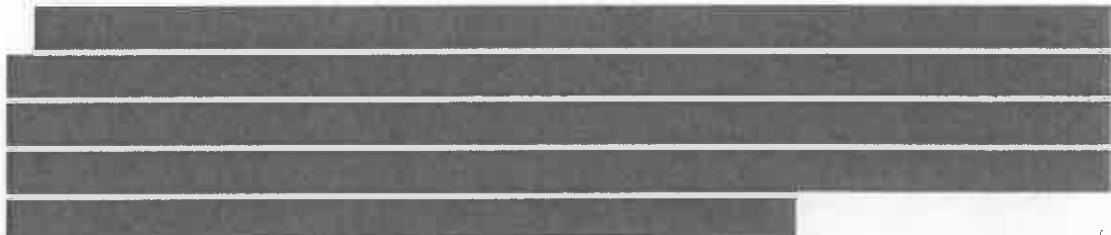
(事務局)



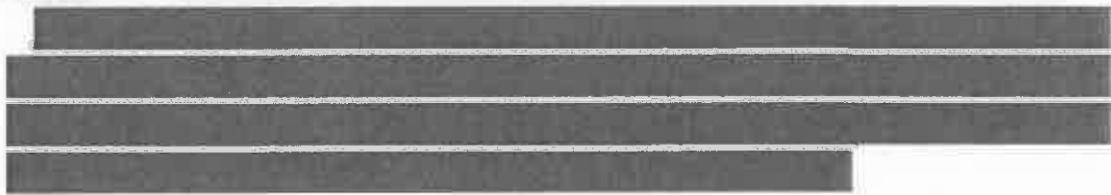
【委員】



【委員】



【委員】



【委員】

この基本構想は、市の総合計画との関係はどうなのか。これは教育委員会として単独で構想を進めているのか。

(事務局)

市は総合計画が最上位計画で、その下に個別計画が各部局にあるが、その中の計画の一つに入れられる。計画というよりは上位の構想という形だが、総合計画の下の個別計画と同じような体系の一つ。

【委員】

総合計画の中には何か図書館についての基本方針とかがあるのか。

(事務局)

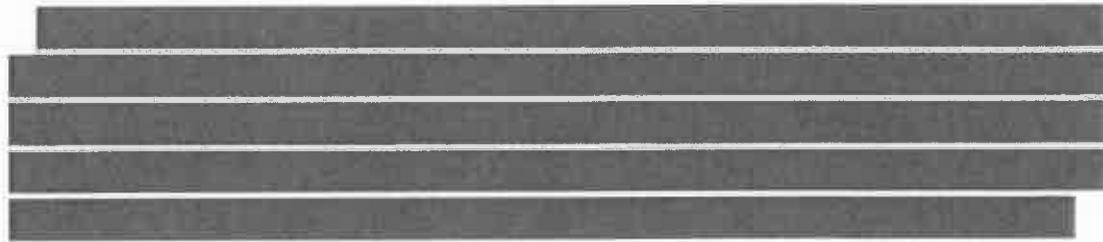
「生涯学習の推進」の中に、基本的な方針として「図書館の充実」の一般的なことが示されているが、今の第5次総合計画は平成32年までを計画したもので、計画の末期の状態であるが、新しくは33年から第6次が始まるので、ちょうどおしまいのところ

で、そういう考え方については第5次の計画に入っているかと言われば、ダイレクトには反映されていない。当然計画を策定する中では府内企画部門等に諮っているので、豊橋市として策定する計画である。若干現行の総合計画では位置づけが弱いので、次の総合計画ではしっかりと位置づけていきたい。

【委員】

これから人口減少が進んでいくて、IT社会が進むなかで、電子データとかが所謂ハードな印刷物にとって代わってくる中で、図書館のあり方というものをしっかりと考えないと。これは重要な課題である。教育という意味で豊橋の子どもがいかに積極的に学ぶか、学ぶ環境としての場としての図書館をどうつくりあげていくか。

【委員】



(事務局)

表現については参考にしたい。

**報告事項**

(1) 図書館利用者アンケート集計結果について

事務局より、配布資料に基づき説明。各委員より意見・質問なし。

(2) H30年度 図書館事業について

事務局より、配布資料に基づき説明。各委員より意見・質問なし。